

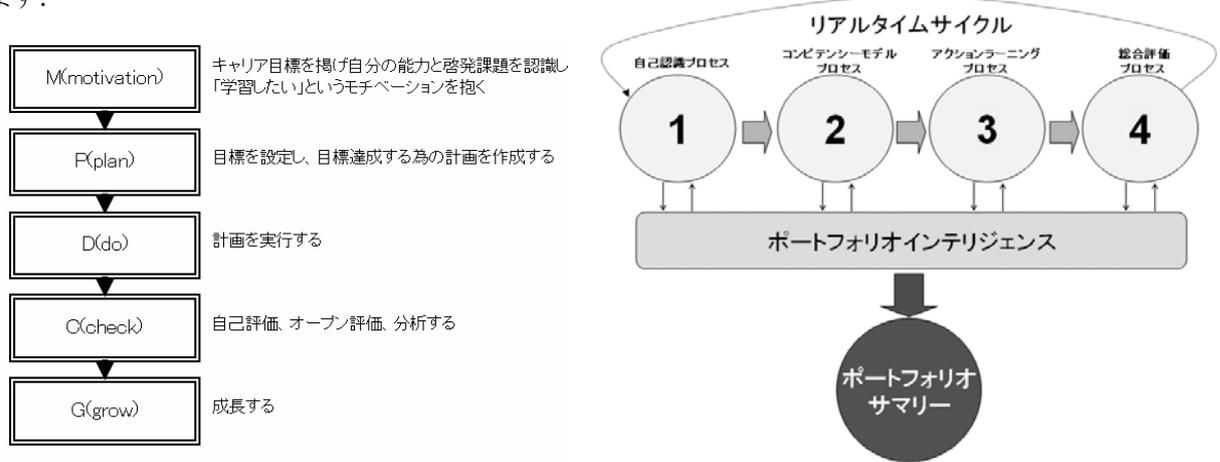
## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	金沢工業大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	大学院ポートフォリオ教育による単位実質化		
主たる研究科・専攻名	工学研究科知的創造システム専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 中 沢 実		
<p><b>[教育プログラムの概要]</b></p> <p>工学研究科知的創造システム専攻(以下本専攻と略称)は、<u>平成16年度より大学院教育の実質化を図る教育プログラムの運用に取り組んでいる。</u>具体的には、学生の個々の授業や課外活動の成果を蓄積・管理し、さらに学生との個別面談結果により、学習プロセスと成果の相互検証、教育の工夫改善を学生の観点から図る組織的な仕組み“KITポートフォリオインテリジェンス”の展開である。この仕組みは、大学院生、教員、職員が三位一体となり、大学院教育の実質化と恒常的な教育の改善サイクルの基盤となっている。</p> <p>KITポートフォリオインテリジェンスとは、研究成果や成績等で個人を評価する教育とは違い、その知識や技術をどのように理解し、何を修得したのか、そのプロセスを重視し、本専攻が掲げる教育目標に対する<u>単位の実質的評価を行う画期的な教育手法である。</u>また、ポートフォリオ教育では、<u>個人の総合的な人間力向上を客観的に捕らえ、また再確認・再認識するための重要な要素となり、個人の理解度と、教育目標の達成度を明確化する上でも有益な教育手法である。</u></p> <p>本専攻では、このポートフォリオインテリジェンスを独自に開発し、その教育成果をあげてきた。いわゆるこれまでの大学院では、修士論文作成が修了要件として重要な意味合いをもち続けてきたが、これは成果論文としての意味合いが中心であり、公聴会などでは研究に対するその結果や成果を評価する体制が中心となっている。しかしながら、<u>本専攻においては、年間を通じての研究活動はもちろんの事、これまでの教育では成しえなかった、プロセス評価の体系化を実践し、実務知識の習得と、知識の共有を、このポートフォリオインテリジェンスにより実現することが可能となった。</u></p> <p>従って、<u>教育の実質化という観点からも、本専攻が掲げる教育目標において、どのようにして学び、教育目標を達成したのかを、客観的に評価することのできる画期的な教育手法であり、これらを体系的に学べる仕組みは、今後の大学院教育改革におけるもっとも有益な支援プログラムとなることは間違いない。</u>また、上述したとおり、本専攻のポートフォリオインテリジェンスは、<u>既に3年間の実績を積み上げ、さらに充実させるべく日々努力を重ねている。</u>それゆえ、この教育プログラムが採択されれば、ポートフォリオ教育の更なる発展に取り組み、<u>電子化ポートフォリオの仕組みづくりに挑戦し、それらの成果を広く公表し、本専攻のみならず、日本の大学院教育における重要な教育支援プログラムとなりうると確信している。</u></p>			

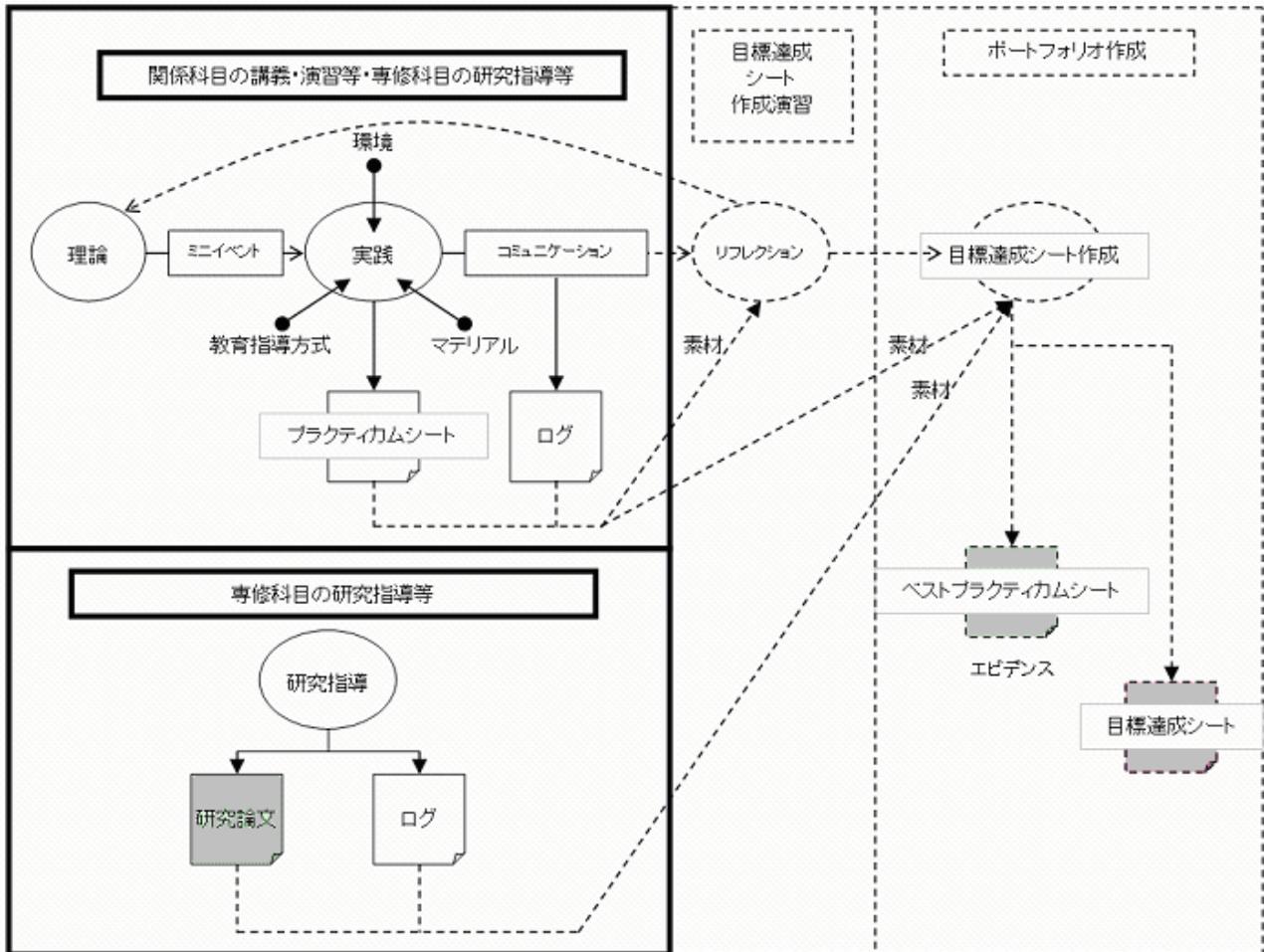
履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

### ポートフォリオインテリジェンスの基本概念

ポートフォリオインテリジェンスはM→P→D→C→Gにより「自己主導のコアコンピタンス」を創造・確立していきます。



M→P→D→C→Gは「自己主導のコアコンピタンス」を創造・確立する。



図：ポートフォリオインテリジェンスの仕組み

<採択理由>

大学院の実質化の面では、「知的創造社会」に求められる新たな人材を育てるため、「ITアーキテクト」、「ビジネスアーキテクト」、「知的財産プロフェッショナル」の3つのコースが設置され、明確な目的が掲げられている点や、非常勤講師も含めたファカルティ・ディベロップメントの実施や、学生の意見をくみ上げフィードバックする実効性のある自己評価体制が整備されている点は評価できる。

教育プログラムについては、金沢工業大学の特色の1つである「ポートフォリオ教育」を更に発展・拡充した教育体系が整備されており、これからの大学院教育における教育のプロセス管理の特徴的なモデルとして期待できる。しかしながら、「ポートフォリオ教育」の中でどのようなタイプ・レベルの人材の育成を目指しているのかなどが明確にされていないため、教育プログラムの実施に向けて、これらの点を明らかにすることが必要である。